

この度は、「コアカリ重点ポイント集〔改訂第9版〕vol.1」をご購入いただき、誠に有難うございます。

本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。

ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

薬学ゼミナール編集 コアカリ重点ポイント集〔改訂第9版〕 vol.1

補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P15 ①	n-プロパノール(分子量 56)	n-プロパノール(分子量 60)
P71 7.4 起電力(E)	負極の標準電極電位と正極の標準電極電位の差を意味し、起電力が大きいほど電池の能力が大きい。 起電力 E = 正極の標準電極電位－負極の標準電極電位	負極の電極電位と正極の電極電位の差を意味し、起電力が大きいほど電池の能力が大きい。 起電力 E = 正極の電極電位－負極の電極電位
P127 1.2.2 D.①ヒドロキサム酸生成	DCC: N,N' -ジシクロヘキシルカルボジイミド	削除
P165 ・McLafferty 転位	……、 γ 位の水素原子が二重結合原子へ転位を行う(その際、 $\alpha - \beta$ 間が切断される)。……	……、カルボニル酸素から6番目の位置の水素がカルボニル酸素へ転位し、開裂反応が進行する。……
P165 例		
P174 1.1 分離機構と定性・定量 5-6 行目 式	$k = \frac{\text{固定相に存在する物質の量}}{\text{移動相に存在する物質の量}}$	$k = \frac{\text{固定相に存在する成分量}}{\text{移動相に存在する成分量}}$
P174 1.1 分離機構と定性・定量 7 行目	k は、質量分布比とよばれる	k は、 <u>保持係数</u> とよばれる
P288 問 14 解説	アルケンのトランス体とシス体は、 ^1H NMR スペクトルにおいて、スピンスピン結合定数(J 値)が異なるため、区別が可能である。	<u>フマル酸とマレイン酸の構造である。両者は ^1H NMR スペクトルにおいて、化学シフト(ppm)が異なるため、区別が可能である。</u>